



小田小だより

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 Tel.045(775)3011

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/koda/>

横浜市立小田小学校

防災への取組について

校長 中川 浩二

これから一年間の中で最も寒い2月に入りますが、子どもたちは、あたたかい給食を食べて体をぽかぽかにして元気に活動しています。

1月1日には、能登半島地震がありました。犠牲となられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の皆さまには不安な日をお過ごしのことと存じます。一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

今回のことで、地震災害の恐ろしさを改めて思い知らされました。私の経験では、13年前の3月11日の東日本大震災で、6年生の担任として校舎3階視聴覚室でパソコンの授業をしていた時、いままで経験したことがない大きな揺れを体感したことを今でも鮮明に覚えています。

その後、児童を引き渡し、PTA会長の自動車に同乗し道路が大渋滞の中、出張中（関内）の校長を3時間程かけて迎えにいき、学校にもどってきたのが夜半頃になっていました。また、計画停電やお店での生活必需品不足など不安定な生活が続いたことを思い出します。

小田小では、地震に備えるために年度始めの4月に地震・火災を想定した避難訓練から始まり、引き取り訓練、1次避難から2次避難が伴う総合防災訓練、授業中や休み時間中の予告なし（児童・職員には実施日を伝えずに行う）の避難訓練を、年間を通して計画的に行っています。

この避難訓練の際に、私から子どもたちに次のように伝えています。

- 避難訓練の大切さ、本当に発生したときと同様に真剣な姿勢で訓練に臨むこと
- 訓練を重ねて、適切な行動を体で覚えること（上達するためには練習を繰り返すように）
- 放送や先生の話をよく聞くこと、指示にしたがって、あわてず落ち着いて行動すること
- 自分の命は自分で守ることの意識をもつこと、地震や火災はいつ発生するか分からないこと
- 全校児童への声掛け（子どもたちの避難の仕方や話しの聞き方など、よい点を褒める）

小田小の子どもたちは、緊張感をもって真剣な姿勢で毎回の避難訓練に取り組んでいます。教員の指示にしたがって、おかしも（おさない、かけない、しゃべらない、もどらない、）を意識して、安全な経路を通して、すばやく校庭へ避難しています。

また、校庭に避難した全校児童は、おしゃべりをせず落ち着いて、教員の目を見て話をよく聞く態度が身についています。これらは、子どもたちが避難訓練を積み重ねて身につけた力です。

2月には、休み時間中に地震・火災が発生したという想定で今年度最後の避難訓練を行います。子どもたちが、今までの避難訓練で身につけたことを生かして、適切に行動し避難することができるよう、身を引き締めて臨みたいと思います。

その他、昨年度より防災教育の一環として、4年生を対象に横浜市防災センターに行き、地震・火災体験をしています。地震シミュレーターでは、最大震度7の揺れを体感し、建物がどのように揺れ被害がひろがっていくのかを学びます。

最後に、今回の地震災害により、お子さまが不安定な気持ちになる場合などは、ご家庭で寄り添って話を聞いてあげてください。その上で、ご心配な点や心のケアなどについて遠慮なく学校へご連絡ください。